

2020年12月期 決算説明資料

**2021年2月
株式会社福田組**

証券コード：1899

1. 会社概要	P3
2. 2020年12月期決算概要	P6
3. 2021年12月期通期見通し	P13
4. 中長期経営計画の現状と今後	P18



会社概要

会社概要：100年以上の歴史を持つ新潟県の建設会社

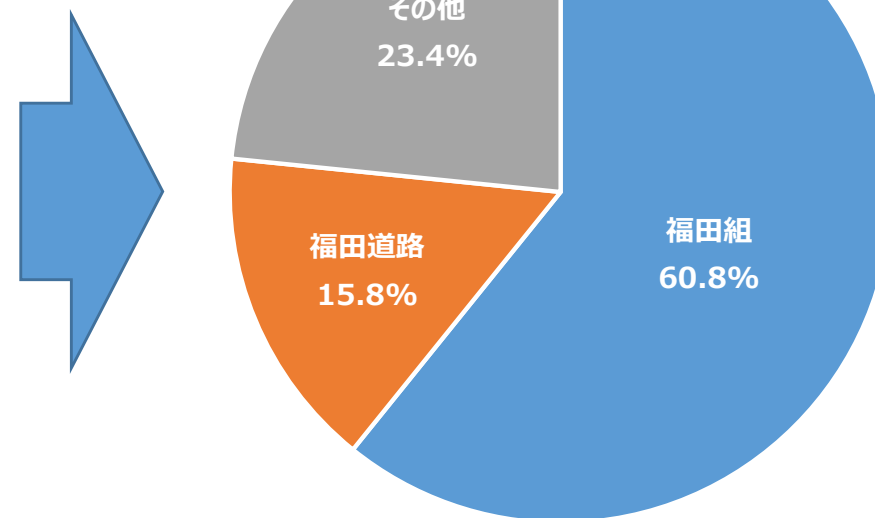
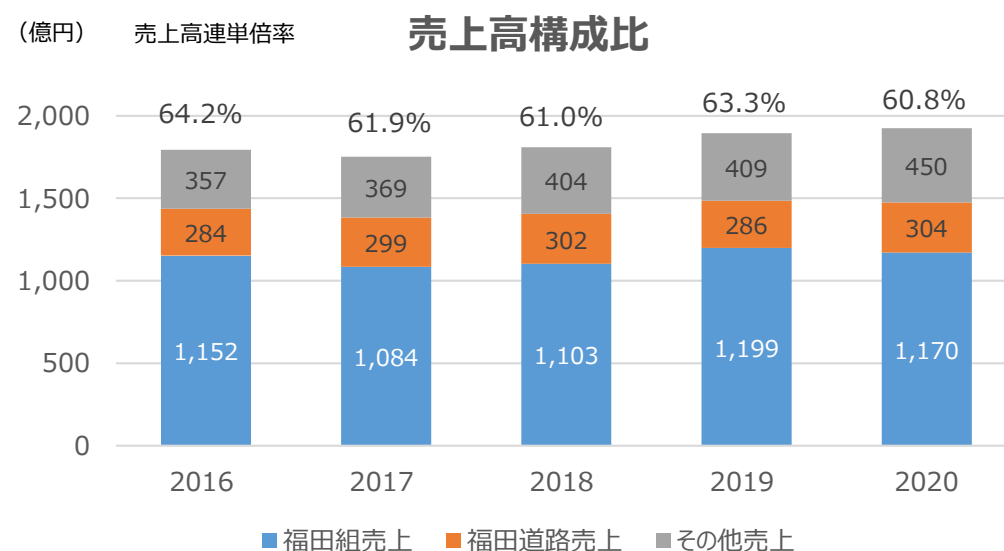


商号	株式会社福田組（Fukuda Corporation）
事業	・新潟県を地盤として全国展開する総合建設（土木・建築）会社 ・当社の企業集団は、当社、子会社26社、関連会社6社で構成 ・優良工事表彰・優良建設技術者表彰を数多く受賞 ＊平成26年度以降、国土交通省「工事成績優秀企業」認定を継続
創業	1902年（明治35年）1月（創業119年）
設立	1927年（昭和2年）12月（設立93年）
業績	売上高1,857億円、営業利益89億円（2020年12月期）
資本金	51億円（2020年12月末現在）
本社所在地	新潟県新潟市中央区一番堀通町3-10
東京本社	東京都千代田区九段北3-2-4
支店・営業所	新潟県以外に北海道、東北、名古屋、大阪、九州など、全国
従業員数	2,109名（連結：2020年12月末日現在）

売上高構成比

福田組単体の売上高連単倍率は60%台で推移
福田道路、その他の業績は安定的に推移

売上高構成比
(2020年12月期)



※各構成比にあたっては、連結調整前の個別数値を使用しています。



2020年12月期決算概要

前期を上回る業績を達成：増収、増益

売上高 1,857億円（前期比+ 2.0%）
営業利益 89億円（前期比+10.6%）

売上高増加： 福田組単体は減少だったものの、福田道路以下
主要子会社が大幅に増加。

売上総利益増加： 福田組の大型工事の採算性が向上、グループ
各社の売上増加に伴い、増益確保。

営業利益増加： 販管費は人件費等で増加するも増益確保。

2020年12月期決算：予想を上回る業績



売上高・営業利益・経常利益・当期純利益すべて予想比増

単位：百万円

	2019/12 ①	2020/12 ②	増減 ②-①	増減率	2020/12 業績予想
売上高	182,088	185,764	3,675	2.0%	176,000
売上総利益	18,069 (9.9%)	19,071 (10.3%)	1,001	5.5%	-
販管費及び 一般管理費	10,014 (5.5%)	10,165 (5.5%)	151	1.5%	-
営業利益	8,055 (4.4%)	8,905 (4.8%)	850	10.6%	6,800
経常利益	8,350	9,038	687	8.2%	7,000
親会社株主帰属 当期純利益	5,475	5,979	503	9.2%	4,600

* カッコ内は対売上高比率

2020年12月期決算概要：セグメント別売上



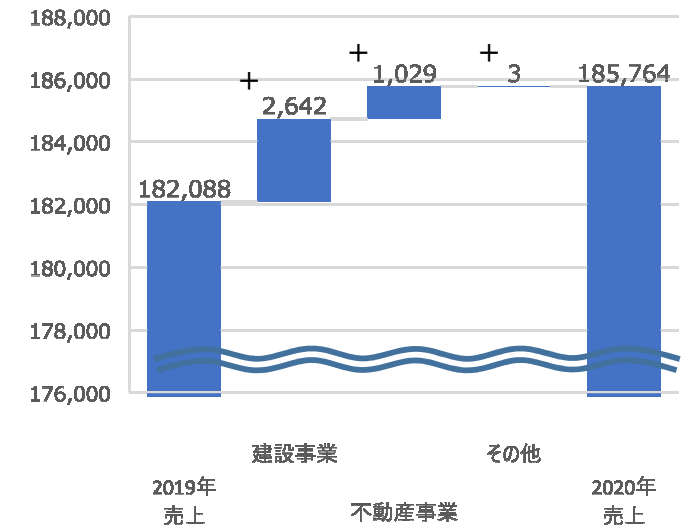
建設事業（土木・建築）、不動産事業ともに売上高増加

単位：百万円

売上高	2019/12 ①	2020/12 ②	増減 ②-①	増減率
建設	178,925	181,568	2,642	1.5%
不動産	2,511	3,541	1,029	41.0%
その他	651	654	3	0.6%
合計	182,088	185,764	3,675	2.0%

セグメント別売上

単位：百万円



<建設>

- ・コロナ禍の中、手持ち工事が順調に進捗。加えて子会社の大型工事が貢献。

<不動産>

- ・不動産販売物件が伸長。

<その他>

- ・横ばいに推移。

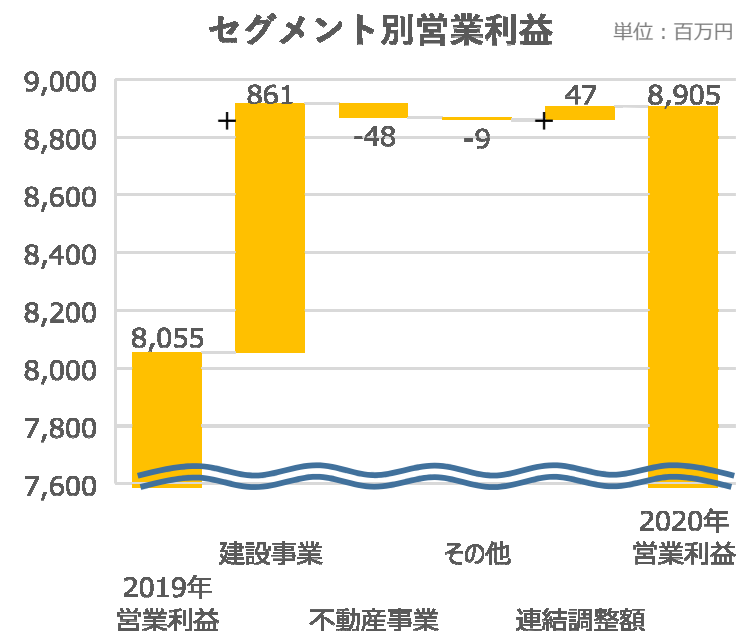
2020年12月期決算概要：セグメント別営業利益



建設事業が堅調に推移

単位：百万円

営業利益	2019/12 ①	2020/12 ②	増減 ②-①	増減率
建設	7,886	8,747	861	10.9%
不動産	312	263	△48	△15.6%
その他	43	33	△9	△22.5%
連結調整額	△186	△ 138	47	△25.6%
合計	8,055	8,905	850	10.6%



<建設>

- ・売上高増加に加え、採算性が向上。

<不動産>

- ・売上増加するも販売用不動産の評価損計上によりマイナス。

<その他>

- ・コロナ禍で子会社の受託運営事業が減収減益。

2020年12月期決算概要：貸借対照表



流動資産・負債が減少

単位：百万円

	2019/12末 ①	2020/12末 ②	増減 ②-①	備考
流動資産	104,203	102,288	△1,914	売上債権△227 販売用不動産△1,056
固定資産	35,343	35,273	△69	
資産合計	139,546	137,562	△1,984	
流動負債	62,880	58,717	△4,162	仕入債務△2,953 短期借入金△1,175
固定負債	8,531	7,508	△1,023	長期借入金△815
負債合計	71,412	66,226	△5,185	
純資産	68,134	71,335	3,200	
自己資本比率（%）	48.4	51.4	3.0	
負債純資産合計	139,546	137,562	△1,984	

<流動資産>

- ・ 不動産の売却及び評価減により販売用不動産が減少

<流動負債>

- ・ 期末の稼働工事減少により仕入債務が減少。返済に伴い短期借入金が減少。

2020年12月期決算概要：キャッシュ・フロー



営業CF大幅改善

単位：百万円

	2019/12 ①	2020/12 ②	増減 ②-①
現金同等物 期初残高	22,858	23,171	313
営業活動C F	△1,151	6,909	8,061
投資活動C F	△1,849	△ 2,193	△344
フリーC F	△3,001	4,715	7,716
財務活動C F	3,314	△ 4,680	△7,994
連結範囲減少額	—	△ 90	△90
現金同等物 期末残高	23,171	23,116	△54

- <営業活動CF> ・仕入債務減少するもそれ以上に売上債権の回収が進み営業CFは改善。
- <投資活動CF> ・有形固定資産の売却収入が減少。
- <フリーCF> ・大きく改善。
- <財務活動CF> ・借入金返済、自己株式取得によりマイナス。



2021年12月期通期見通し

2021年12月期業績見通し



減収減益を予想

単位：百万円

	2020/12① (実績)	2021/12② (計画)	増減 ②－①	増減率
売上高	185,764	175,000	△10,764	△5.8%
営業利益	8,905	7,800	△1,105	△12.4%
経常利益	9,038	8,000	△1,038	△11.5%
親会社株主帰属 当期純利益	5,979	5,300	△679	△11.4%

<売上高>

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により足元の受注時期が不透明につき減少を想定。

<営業利益>

- ・売上減少に加え働き方改革及び人財育成投資により減益を想定。

(個別) 受注高 見通し

前期比12%増加を目指す

単位：百万円

	2020/12① (実績)	2021/12② (計画)	増減 ②-①	増減率
受注高	98,354	111,000	+ 12,646	+ 12.9%

<土木>

- ・地元の新潟、民間インフラ拡大の東京、九州の土木開発で増加を見込む。

<建築>

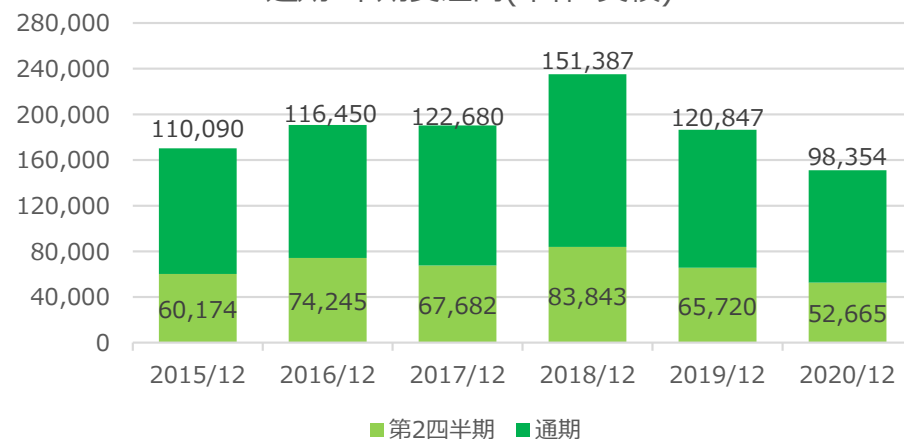
- ・首都圏を中心に大型工事受注で増加を見込む。

<不動産事業>

- ・販売物件の受注増を見込む。

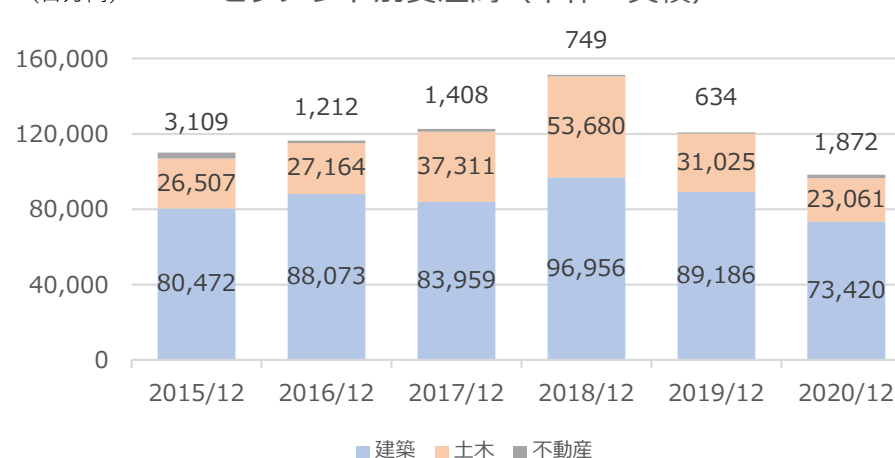
(百万円)

通期・半期受注高(単体・実績)



(百万円)

セグメント別受注高 (単体・実績)



(個別) 土木・建築の受注高・繰越工事高



受注高減少、繰越工事高前期比△12.9%

単位：百万円

	2018/12	2019/12 ①	2020/12 ②	増減 ②-①	増減率
受注高＊	150,637	120,212	96,481	△23,730	△19.7%
(土木)	(53,680)	(31,025)	(23,061)	(△7,963)	△25.7%
(建築)	(96,956)	(89,186)	(73,420)	(△15,766)	△17.7%
繰越工事高＊	143,674	144,558	125,859	(△18,698)	△12.9%
(土木)	(60,884)	(62,791)	(52,232)	(△10,558)	△16.8%
(建築)	(82,790)	(81,766)	(73,626)	(△8,140)	△10.0%

＊不動産開発の受注は、除く。

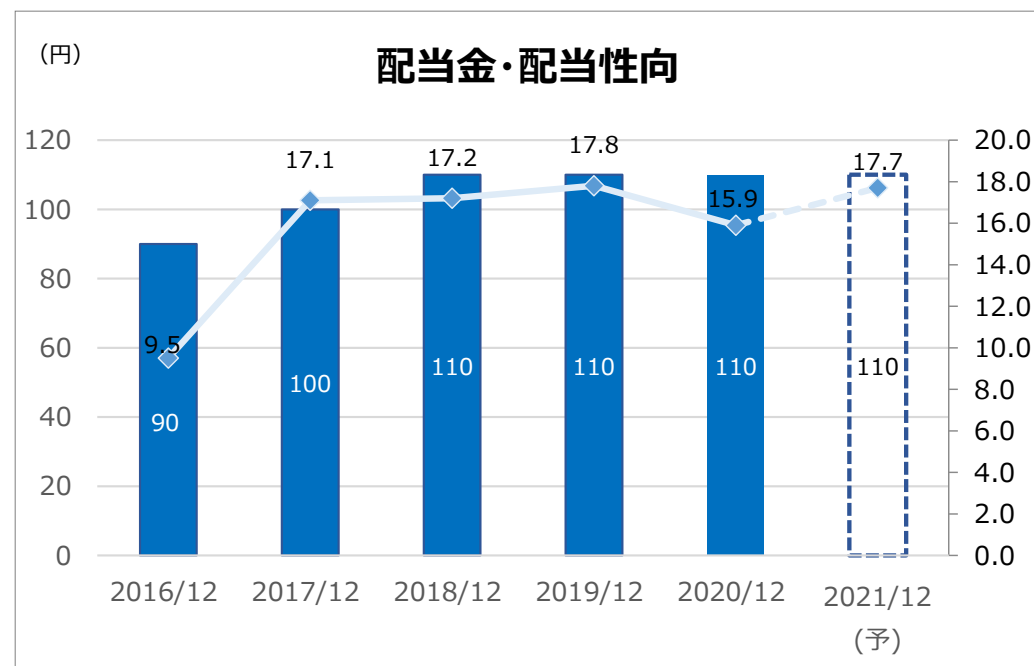
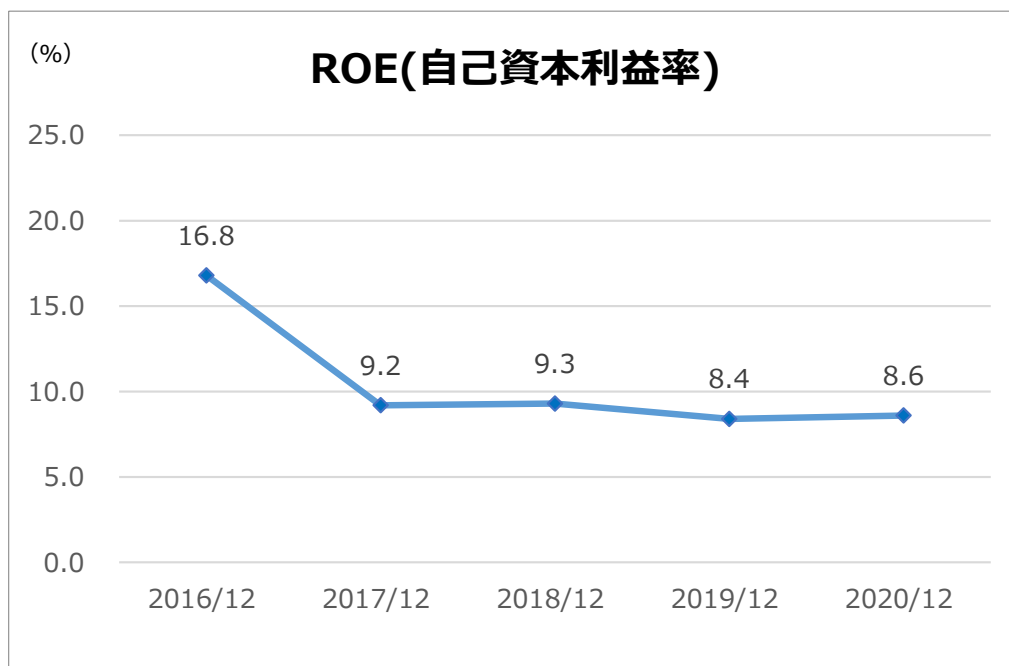
安定・継続的な配当・株主還元を実施



株主還元：内部留保の充実を図りながら安定的な還元
自社株買により総還元性向54.7%

2020年12月期（予定）：110円

2021年12月期（予想）：110円





中長期経営計画の現状と今後

長期ビジョン2025 ～10年後のあるべき姿～

100年の歴史の伝承と次の100年に向けた挑戦 (2016年2月発表)

あるべき姿

- ・ 強いグループ経営で地方ゼネコンの枠を超えた全国展開
- ・ 品質と安全で顧客満足の創造
- ・ 高い技術力・高い提案力ある企業集団
- ・ 優秀な人材の確保と活躍できる環境の整備
- ・ 全てのステークホルダーとWIN-WINの関係を構築

収益性目標

ROE8.0%程度

株主還元

純資産配当率2.0%
又は配当性向20%



マルチ・ステークホルダーの満足度ナンバーワン企業へ

～「持続的成長企業」となるために～
環境や社会へ企業としての責任を果たし、
ステークホルダーから最高の評価を得て、
進化し続ける企業へ

中期経営計画2021の位置づけ



◆社会情勢

2021.2

・アベノミクス
・少子高齢化の進展
・再生可能エネルギー
・防災・減災ニーズ

・消費税増税
・労働人口の減少
・IT技術導入の加速
・働き方改革

・高齢化・人口減少による国内市場の縮小
・AI技術の浸透
・社会ニーズの多様化
・環境問題

◆建設業界の見通し

2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025

安定的な需要

競争激化・受注減少・人手不足

公共工事の発注形態の変化

社会インフラ・マンション等の老朽化への対応・環境問題

◆当社の目指すべき姿

前中計2018 phase1

現中計2021 phase2

継続的成長の実現

・業績回復
・受注取り込み
・財務基盤の安定化

・事業のポートフォリオ変革
・新たな収益基盤
・人材の確保・多様化

・強い連結経営で地方ゼネコンの枠を超えた全国展開
・高い技術力・高い提案力のある企業集団
・全てのステークホルダーとWIN-WINの関係

長期ビジョン2025 次の100年へ「伝承と進化」

2021中期経営計画：最終業績目標及び経営数値目標 を軌道修正



新型コロナウイルス感染症拡大の影響をふまえ2021年業績目標と経営数値目標を軌道修正

業績目標 (2019年2月公表) (2021年2月時点)

項目	2021/12 業績目標	2021/12 見通し
売上高	1,890億円	1,750億円
福田組単体	1,235億円	1,087億円
(建築・土木)	(1,200億円)	(1,063億円)
(開発事業)	(35億円)	(24億円)
グループ会社	655億円	663億円
営業利益 (営業利益率)	79億円 (4.2%)	78億円 (4.5%)
福田組単体	58億円	53億円
(建築・土木)	(95億円)	(85億円)
(開発事業)	(8億円)	(7億円)
販管費	(△45億円)	(△39億円)
グループ会社	21億円	25億円

経営数値目標 (2019年2月公表) (2021年2月時点)

項目	2021/12 経営数値目標	2021/12 見通し
有利子負債残高	20億円	20億円
自己資本比率	50.0%	50.0%
ROE	8.0%	8.0%
純資産配当率	1.6%	1.6%
配当性向	20.0%	17.7%

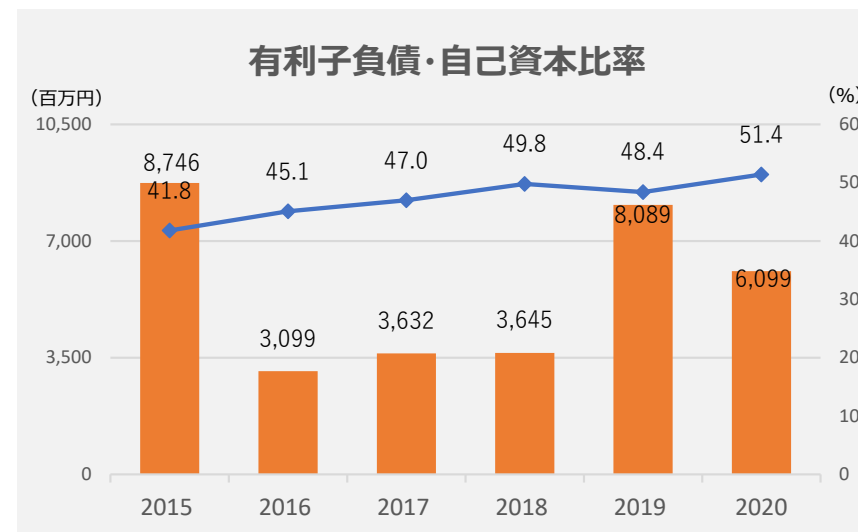
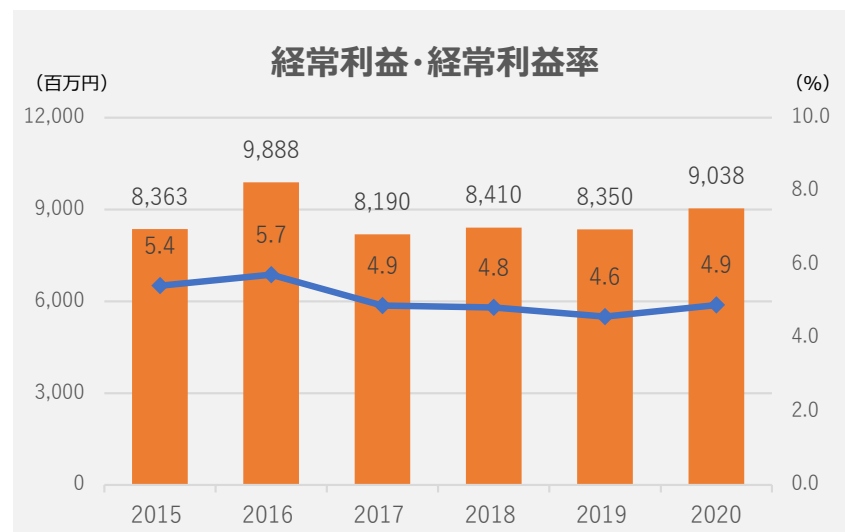
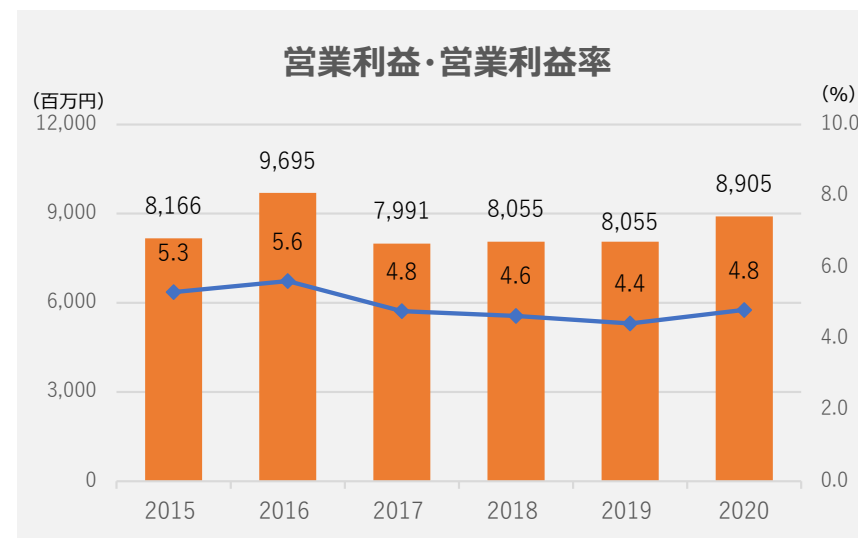
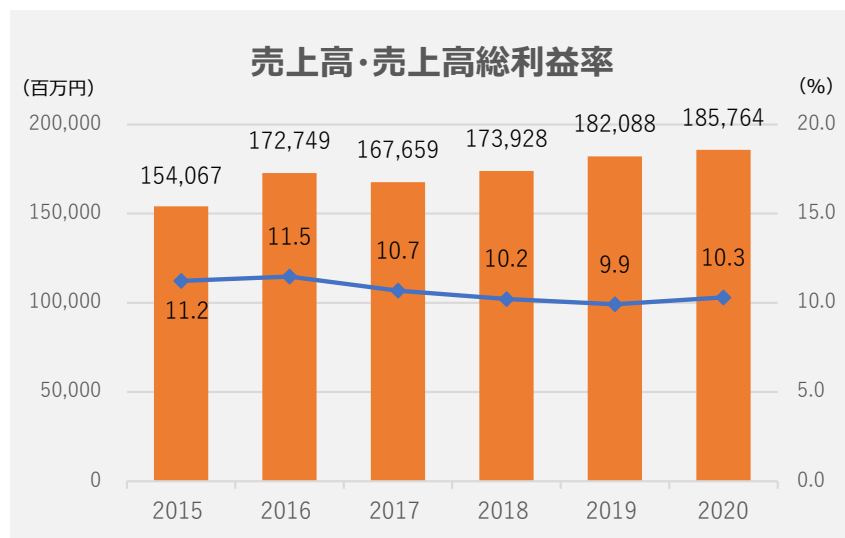
◆ 業績目標：営業利益4%以上

働き方改革、慢性的な人材不足の解消
を行いながら、持続的安定成長

◆ 経営数値目標：

経営基盤を維持しながら、
安定・継続的な株主還元を実施

(ご参考) 主要業績指標の推移



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、
本資料の発表日、現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、
実際の業績は、様々な不確定要素により異なる場合がございますことをご了承ください。

100年先も誠実



株式会社福田組 証券コード：1899

2020年12月期決算説明資料

2021年2月

連絡先：経営企画部 経営管理室 TEL 025-266-9199（大代表）